

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう115

キンクロハジロ

分類：カモ目 カモ科

大きさ：40cm ハトより大きい

目が金、顔は黒、腹は白がキンクロハジロという名の由来

小鳥の森でよく見られる時期

・10月～3月

小鳥の森で見られる場所

・カワセミの小径終点の五本松沼
(阿武隈川にもよく来ます)

きこ さん がかいてくれました。

10月 森のココに注目

ドングリさがし in 小鳥の森

秋といえば、森の中で目につくのは木の実ですね。その中でも一番人気は「ドングリ」です。「ドングリ」とは、ブナ科という木の仲間の果実のこと。

小鳥の森には、「コナラ（小櫟）」、「ミズナラ（水櫟）」、「クヌギ（栲）」、「シラカシ（白櫟）」という4種類がドングリの実る木の代表です。出会える場所も様々で、コナラは森の中の至るところに生えています。ミズナラは観察路を登った標高の高いところに、クヌギは炭焼き小屋の近くにありますが、そして、冬でも緑色の葉が落ちない（常緑樹）シラカシはかんざつ広場とネイチャーセンター脇に植えたものがあります。ドングリがかぶっている帽子（殻斗：かくと）にも特徴がありますよ。

この秋は、小鳥の森で「ドングリ」をさがしてみませんか？



コナラ



ミズナラ



クヌギ



シラカシ

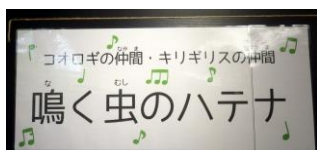
「鳴く虫」の展示をはじめました

9月に入っても暑い日が続きますが、夏の間本当ににぎやかだった「セミ」の声はずいぶん静かになりました。そこでネイチャーセンターでは、同じ鳴く虫でも、「コオロギの仲間」や「キリギリスの仲間」を紹介する展示をはじめました。

小鳥の森駐車場から「かんさつ広場」とおり、ネイチャーセンターまでの道を歩きながら耳をすますと、いろいろな声が聞こえてくることに気づくでしょう。

特に竹林前に広がる草はらは、コオロギやキリギリス、バッタがたくさん暮らしている場所です。小さな虫を見つけたらソッと近づき、スマホやデジカメで撮影したりその声を録音し、ネイチャーセンターの展示パネルで種類を調べてみてください。

虫の世界がひろがります！

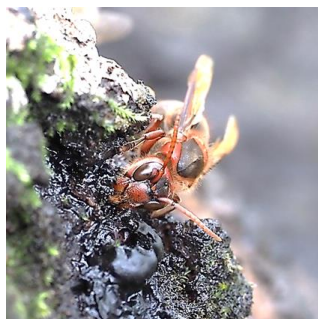


スタッフだより

乗っ取り戦略

秋の森を歩くときに注意しなければいけないのがスズメバチです。小鳥の森ではオオスズメバチ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチ、キロスズメバチ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチの6種類が確認されています。

この中には危険で恐ろしい生態を持つものがいます。チャイロスズメバチです。このスズメバチはキロスズメバチやモンズズメバチの巣を乗っ取ってしまうのです。乗っ取る巣にゆっくりと近づき、その巣のハチに攻撃されないようにそのハチと同じ匂いを体につけてから巣に侵入します。その後、女王バチを殺し、元々いた働きバチ（キロ（モン）スズメバチ）に自分（チャイロスズメバチ）の子を育てさせます。



やがて、元々いた働きバチが寿命で死んでしまうころには、巣はチャイロスズメバチでいっぱいになるといわけです。
スズメバチの中でも独特な子育てをする生態の持ち主なのです。
(レンジャー ますぶち しょうた)

コロナ禍の利用状況

学校団体と出前講座

小鳥の森では、新型コロナウイルスのまん延防止対策をし、工夫をこらした団体利用を受け入れています。9月下旬には、約100名の小学2年生を大きく4つのグループに分け、バッタの観察、笹舟流し、竹のクラフト、森のお話というプログラムを交代で体験していただきました。10月はいくつもの市内の小学校や保育園などに出前講座としてレンジャーが訪問することになっています。コロナ禍でも生きものの不思議や楽しさを味わってもらえたらうれしいです！



* 小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページで**カラー版**をご覧ください。

* 園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2021年10月号No.426／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま